

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：33914

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02241

研究課題名(和文) 隣接国家の「辺境」から見る海境—豪北部海域の領域化と境域のダイナミズム

研究課題名(英文) Dynamism of the Marine Frontier: territorialization of Australia's northern waters and subsistence tactics of the people in the border regions

研究代表者

鎌田 真弓 (Kamada, Mayumi)

名古屋商科大学・国際学部・教授

研究者番号：20259344

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、生活圏としての「伝統的」境界・国家の領域化に伴う境界・脱領域的な「機能的境界」など、豪北部海域での「海境」の生成過程と緊張関係を詳察し、浸透性を異にする境界が重層的に形成する境域の実相を明らかにした。当該境域で生業活動を営んできた社会集団は、生業を変化させて移動・越境を伴った生存戦略を展開してきた。彼らの国家に対する帰属/対抗意識は希薄で、社会的境界も柔軟に変化させている。他方、出稼ぎ労働者としての越境集団は、出身地の地縁や血縁を維持し、「他者」として現地に適応してきた。近年の「密航」による庇護申請者は「危険な他者」とされつつも、受容社会への帰属を進める対抗言説も生まれている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、海民・漁民といった当該海域を伝統的な生活圏とする人びとや、出稼ぎ労働者や庇護申請者などの主体的な越境行動に着目して、異なる透過性を有する境界の生成過程や実相を明らかにしたことにある。さらに、当該境域での越境移動の動態を歴史的・政治経済的文脈において詳察するにあたって、史資料の収集と分析や当事者への聞き取り調査に加えて、個人の記録の収集と復元に努め公開した。国家主権の発動形態としてのみならず、越境者という当事者の視点から、多元的な境界が偏在する境域の動態を検証した本研究は、近年焦点の問題として認識される海上国境のあり様を検討する上で、新たな視座を提示する試みである。

研究成果の概要(英文)：The territories of Australia's northern waters consist of multilayered boundaries of the 'traditional' subsistence spheres, the state's territorial borders and deterritorialized functional borders. This study examined the trans-border activities of various social groups in the region, which revealed the different permeability of the boundaries and the conflicts among them. The traditional inhabitants have adjusted their livelihood by migrating to more suitable places for their subsistence activities and / or changing the commodities that are traded. They have little sense of belonging to the nation-state and have exhibited flexibility in changing the social boundaries. On the other hand, indentured laborers adapted to the local society as 'others' by maintaining their social relationships among themselves. Although 'stowaway' asylum-seekers have been labeled as 'dangerous others', the counter-discourse has evolved in Australia which promotes their inclusion in to the society.

研究分野：オーストラリア研究

キーワード：境域 オーストラリア インドネシア パプア 越境 海民 ポートピープル 真珠貝・ナマコ・フカヒレ

1. 研究開始当初の背景

本研究組織は、インドネシアとオーストラリアが接する海域で越境移動する社会集団に着目して、近代国家による国境管理とヒトの越境移動の相克を精査してきた。その成果を踏まえ「海の境域」であり、かつ経済格差の大きい国の「辺境」にある当該地域の社会集団の動態を、歴史・政治経済の文脈において捉えることにより、多元的な境界の実相を明らかにして、境域研究を深化させたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、「海境(うみざかい)」という概念を提示することによって、人びとの経験世界に基づく境界と国家主権の発動による境界からなる多層構造の境域を複眼的に捉え、境界研究に新たな展望を拓くことを目的とする。

本研究が着目する豪北部の海域は、経済格差の大きい国家が隣接する海洋上の境域にあたるという特徴を持つ。当該境域の形成過程という歴史性を考慮しながら、境界の策定に伴って地理的・政治的周縁部に置かれることになった人びとの視点から「境界」の多元性を実証的に描き出す。具体的には、「辺境」の社会集団の現実感覚に基づく境界や社会の変容、伝統的境界と国家による領域化との緊張関係や相互補完関係、さらに彼らの国家への帰属意識の様態を分析することによって、境域における主権の偏在性と、透過性や流動性を含む境界の実相を明らかにする。

3. 研究の方法

本課題は学際的な共同研究で、豪北部の境域住民や越境集団、オーストラリアやインドネシアの情勢に精通している日豪の10名の研究者から構成された(研究代表者、研究分担者6名、研究協力者3名)。各メンバーは研究目的に沿って、それぞれの研究手法で、研究対象地域や境域の社会集団での現地調査および史資料の収集・分析を行った。

内海は「南洋」で「強いられた越境」を体験した人びと、特に太平洋戦争中の日本軍捕虜収容所の体験者に関する戦争裁判および証言記録や史料の分析・整理を行った。鎌田・田村・永田・松本・村上は明治から昭和初期にかけて豪北部で真珠貝業に携わった日本人の記録を収集・分析し、翻刻やデジタル化による記録の保存に努めるとともに、出稼ぎ日本人の移動と現地への適応戦略に関する考察を進めた。この時期に日本から豪州へ渡った人びとの多くは、太平洋戦争中に豪州で強制収容され、上記の「強いられた越境」の体験者でもある。

また鎌田・田村・松本は、史資料の精査に加えて、パプアや豪州で真珠貝採取および真珠養殖に携わった技術者・労働者(日本人・パプア人・トレス海峡諸島民他)に聞き取り調査を行い、当該地域での経済活動と豪州の資源・国境管理政策の動態および社会変容を分析した。

長津は、インドネシア・マレーシアでの現地調査に加えて、シンガポールで文献調査を行い、サマ人の移動・移住のパターンを歴史・政治経済の文脈におくことによって、境域での社会動態を実証的に明らかにした。間瀬は、インドネシア・東ヌサトゥンガラ州口テ島での現地調査によって、豪州北部海域での漁業を生業とし難民輸送にも携わってきた人々の境界認識と国家への帰属意識を詳察した。

飯笹は、ボートピープルを阻止するための豪州の境界管理政策に関する資料・文献調査、支援組織のスタッフなどへの聞き取り調査、および芸術祭やミュージアムにおける難民・越境者の表象や当事者の語りを詳察し、脱領域的な「機能的境界」の様態と、それを可視化する試みを検証した。加藤は、「越境者の表象と他者意識」をテーマとして、文学作品の翻訳、現地での資料収集、当事者や支援者の聞き取り調査を行い、豪州における難民言説の複合性

を明らかにして、難民表象についての考察を進めた。

4. 研究成果

(1) 多元化する境界

1 海境(うみざかい)の特性

水産資源や海底鉱物資源などの海の資源は、海上から海底まで多層的に分布しているため、特定集団による資源の利用権・開発権を設定する「海境」は複雑に重なり合う。加えて海上では、大小様々な船によって広範な移動ルートのネットワークが張り巡らされ、人の往来や輸送は状況に応じて柔軟に変化してきた。海での生業活動は陸上以上に経験を必要とし、社会集団の生活圏としての境界は、流動的で透過性を有する「オープン・ボーダー」の性格が強い。

2 近代国家による領域化

オーストラリア連邦の成立(1901年)後、インドネシアの独立(1945)と西パプアの併合(1969)、パプアニューギニア(1975)・東ティモール(1999)の独立など、当該地域での国民国家の成立は比較的新しい。国家の成立とともにインド洋から珊瑚海に至る海域は、漁業資源の保護・管理・配分、および海底鉱物資源の探査と開発をめぐる、国家主権がおよぶ領域の「フロンティア」となり、漁業区域・大陸棚・海底鉱物資源開発区・環境保全区・移民区域などの様々な境界が策定された。他方、国家権力が先鋭化した形で行使されることによって、「辺境」の人びとは中央政府の政策に直接晒されることになった。

さらに、オーストラリアと近隣国家の経済格差の中で、豪州の外側の地域内での越境移動と、豪州外から豪州に向けての越境移動に差異が見られ、豪州への移動に対しては厳しい管理と制限が行われている。豪北部海域には、豪州によって幅が厚く透過性の低い境界が構築されてきたといえる。

3 「伝統的境界」の矛盾

こうして、人びとが生活圏としてきた地域は分断され、国家のフロントラインでの越境移動は密漁・密輸・密航として違法化されることになった。他方、先住権の承認や持続可能な資源利用といった新たな政治理念が生まれ、国家の周縁部にある人びとの「伝統的」な生業活動が認められることになった。例えば、豪州の領海・排他的経済水域でのインドネシア漁民の伝統的漁法による漁撈を認めた特別区域の設定や、トレス海峡諸島民とパプアニューギニア人の伝統的な生活様式と生計活動の保護・限定的移動を保障した「トレス海峡保護地帯」の設定などが、こうした事例である。

ところが、近代国家の境界域に「伝統的境界」を包摂することによって、脱植民地主義的な「辺境」管理を目指したオーストラリアの目論見は崩れることになる。その要因は、「伝統的生活様式」や「伝統的漁業」は地域限定的・固定的な自給自足の生業活動を想定していたことにある。当該地域で「伝統的」に営まれてきたナマコ漁や真珠貝・高瀬貝漁、フカヒレ漁などは、貨幣経済に関与する商業活動であり、広域にわたる交易ネットワークが形成されていた。したがって漁民たちは、外的環境の変化に伴い漁獲物や販路を変化させ、外部から労働者を雇用して「伝統的」社会集団の再編成を行い、新たな社会的境界を生み出していったのである。

4 脱領域化する境界

本共同研究では、国家が領土的な境界の内外で主権や懲罰を与える権限を発動する「機能的境界(functional borders)」(Weber, Leanne and Sharon Pickering. *Globalization and Borders: Death at the Death at the Global Frontier*, Palgrave Macmillan, 2011.)の生成にも注目した。当該地域での「先進国」であるオーストラリアは、厳格な検疫制度を作り出し、密航を阻止するために国軍を投入した海域管理を公海

上やインドネシア領海上でしばしば行ってきた。特に非合法的にオーストラリアに侵入しようとするボートピープルに対しては、領域外での選別や除去、あるいは第三国への移送・収容・難民審査を行っており、脱領域的な (deterritorialised) 「機能的境界」を強化してきた。その境界を越えて庇護を求める密航者は、国家安全保障への脅威とみなされ、難民の「安全保障化」が起こっている。

(2) 海境に生きる人びと、越境する人びと

1 境域社会の生存戦略

近代国家の「辺境」に位置する海境に暮らす人びとは、「伝統的」な社会関係や経済活動を維持しつつ、政治経済の変動に適応してきた。例えば東南アジアの海民は、通貨危機の際には、外貨取引で有意な水産資源の採捕や養殖に適した土地に移動・移住し、また、独自の海上ルートを使って古着の「密輸」を生業に取り入れてきた。また、ロテ島の人々は、バジャウ人に限らず、近隣のエスニック集団との交流のなかで、豪北部海域での真珠貝漁やサメ・ナマコ漁を展開し、ボートピープルの「密航」の手助けも生業の一部とした。

さらに、境域に住まう人びとの国家への帰属意識は希薄である。ロテ島漁村では、インドネシア地方政府の経済支援政策の度重なる失敗と、「不法操業者」に対する中央政府の非人道的な措置を経験して、豪州政府による拿捕・拘留・強制退去措置は「人道的」で、越境活動の「不法化」を抑制するための支援策は「正義」とも認識されている。豪州側への自由移動が可能であったパプアの人びとも、移動制限の強化とともに、社会保障や行政サービスが充実する豪州側での定住が見られたが、オーストラリア国家への帰属意識が醸成されているわけではない。

2 越境者の「他者化」に対する対抗言説

国家の強権的な境界の内側では、越境者は主流社会から「他者」として認識されることになる。真珠貝漁の出稼ぎ労働者や世界各地からの難民のように、多くの場合は、越境者はマイノリティ集団として、地縁・血縁を維持した内向的な社会集団を形成した。

他方、多文化化が進むオーストラリアでは、周縁化されがちな越境集団の主流社会への包摂も観察される。近年難民は「安全保障化」されて、危険な他者としてのレッテルが貼られてきたが、彼らの社会的受容を支援するための制度や組織も多く存在する。また、オーストラリアの文学作品や芸術作品に見られるように、難民が置かれた困難な実状に光を当てるだけでなく、当事者の語りとして社会への帰属を進める言説を作り出している。こうした他者化への対抗言説は、「機能的境界」を含む境界の実態や排他性を可視化する役割を担うと考えられる。

3 「強いられた越境」

本共同研究の主眼は人びとの主体的な越境行動にある。ところが、主体的な越境行動が「強いられた越境」を生んだケースに多く遭遇することになった。南洋で真珠貝漁に従事した多くの日本人出稼ぎ労働者や商店主たちは、太平洋戦争期にオーストラリアに抑留された。日本軍が侵攻した地域では豪軍兵士が捕虜となり各地で強制労働に駆り出されたし、近年ではボートピープルはパプアニューギニアやナウルへと移送された。こうした越境を強いられた人びとは、「機能的境界」の最も暴力的な管理下におかれるが故に、その体験の多くは隠蔽され歴史に埋もれている。その実態を知るためには、当事者による語りと記録を探し出し、残されている公的記録を検証する地道な作業が必要とされる。

(3) 今後の課題

本共同研究の成果を踏まえて、以下の関心領域でのさらなる研究が予定されている。

1 当該地域では、19 世紀半ばから真珠貝漁が盛んになり、多くの日本人が出稼ぎ労働者として働いていた。こうした日本人越境集団は地縁・血縁を維持して現地への適応を図るのだが、その中核となった商店経営者に着目して、移動者の能動的な視点にたった越境移動の動態と現地適応戦術を明らかにする。

2 近年の「ポートピープル」問題に対応するため、豪州では難民の「安全保障化」が顕著に見られる。難民をめぐる「機能的境界」の実相と豪州の社会変容、および対抗言説に関する考察を進め、難民の「脱安全保障化」に向けた可能性を探る。

3 「強いられた越境」に関しては、日本軍捕虜となった豪兵のアジア各地での強制収容や強制労働に関する調査研究があるものの、日本国内での強制労働の全体像は十分に明らかにされていない。残された戦争裁判記録や証言・日記などから、日本国内の捕虜収容所の豪兵や連合国捕虜の生活と労働の実態を明らかにする。

4 本共同研究を踏まえて「オーストラリア研究」の相対化を図る。具体的には、本研究組織が中心となって『大学的オーストラリアガイド』(昭和堂、2021 年刊行予定)を編集し、アジアを中心とした他地域との関係性に着目してオーストラリアを描き出す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 飯笹佐代子	4. 巻 11
2. 論文標題 (研究ノート) シドニー・ピエンナーレ2014と国外難民収容政策 - アーティストの抗議活動は何をもたらしたのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山総合文化政策学	6. 最初と最後の頁 35-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 内海愛子	4. 巻 22
2. 論文標題 捕虜 犠牲とその責任	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 POW研究会 会報	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加藤めぐみ	4. 巻 35
2. 論文標題 山々よりほかに友なき難民 ベフルーズ・ブーチャーニの難民収容所文学試論 1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南半球評論	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 飯笹佐代子	4. 巻 190
2. 論文標題 オーストラリアのポートピープル政策とバリ・プロセスの展開 難民保護をめぐる攻防	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 97-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11375/kokusaiseiji.190_97	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内海愛子	4. 巻 917
2. 論文標題 戦争裁判 裁かれた者たちの「記録」と「記憶」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 200-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内海愛子・奥田豊己	4. 巻 16
2. 論文標題 泰緬鉄道 犠牲と責任	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 雄一	4. 巻 32
2. 論文標題 (書評) J.A.A. Stockwin and Keiko Tamura (eds), Bringing Australia and Japan: the writings of David Sissons, historian and political scientist Volume I	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 オーストラリア研究	6. 最初と最後の頁 151-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.20764/asaj.32.32_151	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAGATSU Kazufumi	4. 巻 95
2. 論文標題 Maritime Diaspora and Creolization: A Genealogy of the Sama-Bajau in Insular Southeast Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 35-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi/10.15021/00008578	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本博之	4. 巻 64(1)
2. 論文標題 出稼ぎ者による「南洋」の継承：パラオのもう一つの顔	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 88-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 KATO Megumi
2. 発表標題 Life Writing of Refugees and Politics of Translation
3. 学会等名 IABA Asia-Pacific 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAGATSU Kazufumi
2. 発表標題 Political Genealogy of Creolism: The Sea Peoples' Arts of Coping with the Authorities in Southeast Asian Maritime World
3. 学会等名 EuroSEAS (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯笹佐代子
2. 発表標題 マルチカルチャリズムとインターカルチャリズム: グローバルな視点から
3. 学会等名 日本カナダ学会年次研究大会シンポ ジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯笹佐代子
2. 発表標題 越境する人々 国境管理の現在
3. 学会等名 青山学院大学総合文化政策学部創設10周年記念トーク・イベント
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAMADA Mayumi
2. 発表標題 Across the Seas: Stories of Japanese Divers in Australia
3. 学会等名 Foundation for Australian Studies in China 6th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NAGATSU Kazufumi
2. 発表標題 Islamization Compared: Processes of Becoming 'Pious Bajau' in Malaysia and Indonesia
3. 学会等名 Asian Research Institute Cluster Seminar (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯笹佐代子
2. 発表標題 フォーラム：諸外国における「インターカルチュラル」へのアプローチ
3. 学会等名 日本国際文化学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KATO Megumi
2. 発表標題 Connectivity in Literature: Australia-China-Japan
3. 学会等名 Foundation for Australian Studies in China International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 NAGATSU Kazufumi
2. 発表標題 Maritime Movements and Ethic Reformation of the Bajau in Indonesian Maritime World
3. 学会等名 International Science Conference on Bajo Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 NAGATSU Kazufumi
2. 発表標題 Islamization Compared: Processes of Becoming "Pious Bajau" in Malaysia and Indonesia
3. 学会等名 Asia Research Institute, National University of Singapore, Cluster Seminar
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 飯笹佐代子 (分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 318
3. 書名 オーストラリア多文化社会論 - 移民・難民・先住民族との共生をめざして	

1. 著者名 飯笹佐代子 (分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 268
3. 書名 応答する 移動と場所 - 21世紀の社会を読み解く	

1. 著者名 鎌田真弓・松本博之・村上雄一・田村恵子・永田由利子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 科研 (17H02241)報告書	5. 総ページ数 216
3. 書名 村松治郎 (1878-1943) : オーストラリアに生きた日本人ビジネスマン / Jiro Muramats (1878-1943): A Japanese Businessman in Australia	

1. 著者名 村上雄一 (分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 318
3. 書名 オーストラリア多文化社会論 - 移民・難民・先住民族との共生をめざして	

1. 著者名 UTSUMI Aiko (co-author)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 245
3. 書名 Civil Society and Postwar Pacific Basin Reconciliation: Wounds, Scars, and Healing	

1. 著者名 加藤めぐみ(訳) アン＝マリー・ジョーデンス著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 希望 オーストラリアに来た難民と支援者の語り 多文化国家の難民受け入れと定住の歴史	

1. 著者名 長津一史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 木犀社	5. 総ページ数 481
3. 書名 国境を生きる マレーシア・サバ州、海サマの動態的民族誌	

1. 著者名 長津一史(分担執筆)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 287
3. 書名 生態資源 モノ・場・ヒトを生かす世界	

1. 著者名 長津一史(編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 海民の移動誌 西太平洋のネットワーク社会	

1. 著者名 松本博之・鎌田真弓・田村恵子・村上雄一（翻刻・編集・解説）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 科研（17H02241）報告書	5. 総ページ数 139
3. 書名 藤田健児スケッチブック-西豪州・コサック追想（大正一四年～昭和一三年）	

1. 著者名 松本博之・永田由利子・鎌田真弓（翻刻・編集・解説）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 科研（17H02241）報告書	5. 総ページ数 91
3. 書名 太平洋戦争におけるオーストラリアの日本人・日系人強制収容所記録	

1. 著者名 加藤めぐみ（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 297
3. 書名 オーストラリア・ニュージーランド文学論集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村上 雄一 (Murakami Yuichi) (10302316)	福島大学・行政政策学類・教授 (11601)	
研究分担者	長津 一史 (Nagatsu Kazufumi) (20324676)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 めぐみ (Kato Megumi) (30247168)	明星大学・人文学部・教授 (32685)	
研究分担者	飯笹 佐代子 (Iizasa Sayoko) (30534408)	青山学院大学・総合文化政策学部・教授 (32601)	
研究分担者	内海 愛子 (Utsumi Aiko) (70203560)	大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・教授 (34427)	
研究分担者	間瀬 朋子 (Mase Tomoko) (80751099)	南山大学・外国語学部・准教授 (33917)	